営農情報（令和7年10月）

作成・監修　勝浦町農業振興推進班

■温州みかん

◇着果管理

樹上選果は、収穫前に商品価値のない極小果、極大果、奇形果、日焼け果、傷果などをあらかじめ摘果する作業です。これらの果実を残しておくと、収穫運搬、保管選別、出荷に労力を要するものの加工原料や廃棄物となり、不要な出費を強いられます。収穫前まで園地を見回り樹上選果を行い、青果率の向上と経費の削減に努めましょう。

■ゆず

◇収穫・予措

・収穫適期は、10月中旬～11月中旬となる。
・用途別の着色程度は、短期貯蔵（冬至用含む）は5～7分着色、長期貯蔵は4～6分着色、貯蔵せず青果として出荷するものは完全着色で収穫する。
・加工用（搾汁）の収穫は、少し緑が残った7分着色が搾汁率が高く、酸濃度と香りの高いものがとれる。
・ゆずは果皮が軟弱なため、貯蔵用は予措が必須であり、冬至用貯蔵は3％程度、長期貯蔵の場合は常温予措で5％、高温予措で6～8％が目安となる。

■カンキツの施肥

・秋肥は、なり疲れによる樹勢の回復と耐寒性の向上、翌春に発生する新梢や花の形成を促進する効果がある。地温が低下する前に施用する。

（10a当たり）

種類	施用時期	窒素成分量（kg）	肥料名（例）	施用量(kg)
極早生温州	10月上＋11月上	5＋5	特A805号	50＋50
早生温州	10月下旬	10	〃	100
普通・高糖系温州	11月上旬	10	〃	〃
すだち	10月中旬	7	ニューグリーンすだち	50
ゆず・ゆこう	10月中旬	7	ゆず配合	60

【10月の病害虫防除】

温州みかん

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
発生時	ミカンハダニ	ダニオーテ（フ）または オマイト（水）	3,000 750	前日 7日	1回 2回以内
		（オマイトは薬害回避のため、10月下旬以降に使用する。）			
発生時	カメムシ類	スタークル（顆）	2,000	前日	3回　〃
収穫前	腐敗防止（早生）	ベルクート（フ）または ベンレート（水）	2,000 4,000	前日 前日	3回　〃 4回　〃

すだち

収穫後	かいよう病	ICボルドー66D	50	－	－

ゆ　ず

収穫前	貯蔵病害 （固着剤）	ベルクート（フ）加用 トップジンM（水） （アビオン－E）	2,000 2,000 1,000	前日 前日 —	2回以内 5回　〃 —
発生時	カメムシ類	スタークル（顆）	2,000	前日	3回　〃

か　き

発生時	カメムシ類	スタークル（顆）または アクタラ（顆）	2,000 2,000	前日 3日	3回　〃 3回　〃

【10月に植え付ける野菜】

■にんにく

・上海早生の場合、植付は9月下旬～10月上旬。
・種球は、リン片を1片ずつはずし大玉を用いる（5g以上）。
・定植前日にリン片を12時間程度、水に浸けておく（発芽を揃えるため）。
・リン片を直立にし、5cm程度覆土する
・植付後、雑草発生前に除草剤散布（ゴーゴーサン（乳）またはトレファノサイド（乳））。

■エンドウ

・播種時期は10月中旬～11月中旬。
・連作を嫌うので4～5年間隔で輪作する。
・本葉2～3枚ごろが最も耐寒性が強い。越冬時に生育が進みすぎると
　寒害を受けやすくなるので、その場合は防寒対策を施す。株間は25cm程度。

■そらまめ

・播種時期は10月下旬～11月上旬。
・連作を嫌うので3～4年間隔で輪作する。
・オハグロを下にして、タネが少し見える程度に軽く覆土する。株間は40cm程度。
・鳥害の予防や生育を揃えるためには、ポットで育苗するのが望ましい。
・生育初期からアブラムシの防除を心がける（例：アドマイヤー（フ）またはモスピラン（顆））。

【10月の病害虫防除】

作物名	対象病害虫	薬剤名	散布濃度	収穫前日数	使用回数
なのはな*（なばな類）	アブラムシ類	スタークル（顆）または パダンSG(水溶)	3,000倍 1,500倍	収穫3日前 収穫7日前	2回以内 3回　〃
	コナガ	アファーム（乳）または ノーモルト（乳）	1,000倍 2,000倍	収穫7日前 収穫7日前	2回以内 1回
	ハスモンヨトウ	プレバソン（フ）5　または コテツ（フ）	2,000倍 2,000倍	収穫前日 収穫3日前	3回以内 2回　〃

※農薬ラベルには「なのはな」ではなく「なばな類」と記載されています。

だいこん はくさい キャベツ	軟腐病	ICボルドー66D	100倍	－	－
	アブラムシ類 コナガ ヨトウムシ	※薬剤は上記「なのはな」準ずるが、収穫前日数、使用回数 については、それぞれ農薬のラベルで確認すること。			

【視察報告】

令和7年9月3～4日にかけて、第64回全国カンキツ研究大会（和歌山）に勝浦町から、勝浦いきいきファーマーズ中村会長ほか4名で参加しました。

和歌山県は、県北部ではカキ、モモ、県中部では温州みかん、県南部ではウメなど県内全域で果樹栽培が盛んです。視察では、有田のSマルチ（宮川早生）と下津の蔵出しみかんを見学しました。

下津の蔵出しみかんは、勝浦町と同様貯蔵みかん産地ですが、海からの風が強いため防風樹で囲まれています。近年、イヌマキはアザミウマの温床になるとのことで、ブルーネットの防風ネットが目立っていました。 また、蔵出しみかんの品種は林温州が主体ですが、2024年に品種登録された「あおさん（熟期が1月下旬の極晩生）」が広がりつつあるようです。

次回第65回大会は佐賀県で開催される予定です。

（勝浦町農業振興課　井方宏典）

＜お問い合わせ先＞
勝浦町農業振興推進班
勝浦町農業振興課42-1505　JA農業振興戦略実践課088-538-7180　徳島農業支援ｾﾝﾀｰ088-626-8768